



# おすすめ絵本



鶴ヶ島子育てセンタースタッフが選んだ『冬のおすすめ絵本』をご紹介します♡



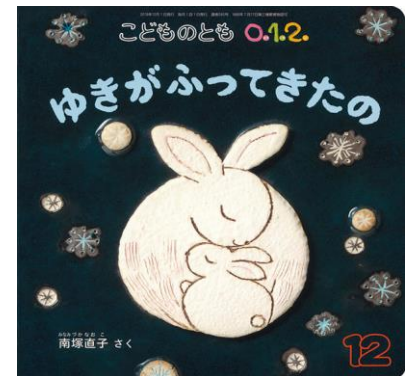
『はんぶんこ』 作/杜 今日子 出版社/福音館書店

まあいいあのドーナッツをはんぶんこ。いっしょにたべよう、いただきます。そのほかにも、あつあつやきいも、ふんわりにくまんなどが登場。おいしそうに描かれた食べ物に、いただきまーすと思わず手が伸びてしまいそう。はんぶんこという言葉の楽しさと、食べ物ははんぶんに分けた時のかたちの変化のおもしろさで、赤ちゃんを魅了する絵本です。



『ゆきがふってきたの』 作/南塚 直子  
出版社/福音館書店

空から雪が落ちてくるのを初めて見た動物の子どもたち。「あれ なあに？」と問いかける子どもに、お母さんは「ゆきがふってきたの」とやさしく教えます。登場するのはりす、きつね、ふくろう、しか、うさぎの親子。雪の降る幻想的な景色の中、体を寄せ合って眠りにつく動物の親子の姿を、陶板の画で情感豊かに表現した絵本です。



『おふとんかけたら』 作/かがくい ひろし  
出版社/プロンズ新社

たこさん、まめさん、ソフトクリームさんにトイレットパーさん……。ページをめくっておふとんかけたら、どんなねぞうになるのかな？ 登場するみんなのゆかいなねぞうに、おやすみ前に親子でいっしょに大わらい。「だるまさん」シリーズかがくいひろしによる絵本。



『よるくま クリスマスのまえのよる』  
著者/酒井 駒子 出版社/白泉社

ねえママ、夜になるとかわいいともだちがやってくるんだ。  
夜みたいにくろい、くまの子——。ともだちへの思いやりと、おかあさんを慕う気持ちをあたたかく描いた愛らしい絵本。2000年10月刊。

